

## 7. 検討課題——1号住居跡出土須恵器坏について

1号住居跡No13須恵器坏は平底を呈し回転ヘラ切り離し後、無調整である。8世紀前半にこの種の坏が共伴する例として名生館遺跡S I 175住居跡で日の出山窯跡出土坏と類似する坏との共伴例がある<sup>(1)</sup>(第16図参照)。又、色麻古墳群205号墳では「供献土器」という資料的限界をもつが、共伴土器から「多賀城創建を下限とする7世紀末から8世紀初頭」の年代が指摘されている<sup>(2)</sup>。この中で本遺跡例は、底部の内面屈曲(体部との境)が、外面屈曲より外方にあると思われる点で名生館遺跡例に近似している。これらは統計処理するには類例に乏しいが器高3cm台、口径14~15cmに対し底径10cm前後(口径:底径が名生館遺跡例が1:0.69、色麻古墳例が1:0.72である)であり8世紀後半とされる糖塚遺跡12号住居跡のヘラ切り無調整の坏(器高4cm台が多く口径:底径の比が1:0.5~0.6)と異なる器形・法量を示している。さて從来窯跡出土のもので8世紀後半から末とされてきたものに長根窯跡B地点1号窯出土坏<sup>(3)</sup>がある。報告例は2点で器高は共に3.4cm、口径は1が15.5cm、2は14.4cmで底径は各々10.0cmと9.3cmであり、糖塚遺跡12号出土のもの(以下B類)より名生館遺跡75号出土のもの(以下A類)に近いが口径:底径の比は中間的様相を示している。

次にこれらの前段階の土器をみると7世紀中・後葉とされる清水遺跡第V群土器に属しA溝2層より底部外面が回転ヘラケズリの坏とともに出土したヘラ切無調整の坏がある。「回転ヘラ切りによる段が二、三段あり、底部中央は平坦であるが全体としては丸底状」<sup>(4)</sup>で器高2.4cm口径12.9cm、底径10.0cm(以上報文図版より計測)で口径に対する底径比が1:0.78である。このようにみてくると県内においてヘラ切り離しで再調整のない須恵器坏は、7世紀中・後葉から集落跡で出土し(清水遺跡)→8世紀前半(A類:名生館遺跡175住)→8世紀後半(B類:糖塚遺跡12住)としだいに器高、口径に対する底径比が増していく傾向にある。又7世紀末葉から8世紀前半にかけて丸底から平底への変化が、以上の諸例に加え福島県小倉寺高畠窯出土例との比較から考えられ長根窯跡A地点出土例は8世紀初頭、B地点出土例は中葉中心の年代に位置づけられる可能性がある。又、A類は同期の再調整のある坏に比して少量である。

なお南武藏における土師器「盤状坏」は、ほぼ同時期の須恵器坏(M1窯式)との酷似が指摘されているが<sup>(5)(6)(7)</sup>、宮城県内において比較的近似するものは、このヘラ切り非調整A類である。但し南武藏のものは口径17cm前後の規画性を特徴とする点でやや異なる。又、静止糸切離しで底部を回転ヘラ削りするものは日の出A地点窯出土のものにみられるがその器形・法量は前者より更に異なることを指摘しておきたい。以上今後の資料の増加を待って検討していきたい。

註( )の番号は37ページの註番号に相当する。

① 古川一明「色麻古墳群」『宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書(昭和57年度)』1983宮城県教育委員会

② 小井川和夫他「糖塚遺跡」『宮城県文化財調査報告書』1978宮城県教育委員会

③ 丹羽茂他「清水遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書V』1981宮城県教育委員会

④ 工藤雅樹「福島市小倉寺高畠遺跡」『福島市の文化財、福島市文化財調査報告書第7集』1969福島市教育委員会

工藤雅樹・桑原磁郎「東北地方における古代土器生産の展開」『考古学雑誌57巻3号』1972日本考古学会

- ⑤ 名生館遺跡 175 住例、長根窯跡 B 地点出土例は口縁部から体部が直線的外傾を示す特徴をもつが 8 世紀後半に大別される佐内屋敷 9 号住居跡では、法量は前者に近似するが口縁部から体部は内湾ぎみに変化している。<sup>19</sup>

### 補註

須恵器坏ヘラ切り無調整 A 類は、未だ類例に乏しいが口径 14~15cm、底径 10cm 前後、器高 3cm 台、口径対底径の比 1 : 0.7 前後で口縁部から体部が直線的外傾を呈する。体部と底部の外面の境は B 類に比して不明瞭なものを含むものである。これらは前述のように名生館遺跡 S 1 175 住居跡で日の出山窯跡出土坏に類似するものとの共伴例があるがその年代的下限については田尻町天狗堂遺跡 9 号住居跡で平底、外面ヘラミガキの土師器が共伴しているところから 8 世紀後半にまで存在していた可能性もある。但し、共伴関係は明確ではなく、糖塚遺跡 12 号住居跡のように糖塚遺跡の 8 世紀後半の土器群には、A 類近似のものはない。

以上から A 類の使用年代は 8 世紀の初頭から中葉中心（8 世紀第 1 ~ 3 四半期）の幅でおさえておきたい。又この中でも編年的に細分される可能性があり長根窯跡 B 地点出土坏は A 類に属しかつ、後出的傾向があるが、現段階では仮説の域を出ず、今後、良好な資料の増加を待って検討してゆきたい。

註1) 手塚均『天狗堂遺跡』1978 田尻町教育委員会

(2) 本文の清水遺跡 V 群土器、色麻古墳群のヘラ切り無調整坏の存在について各々丹羽茂氏、小井川和夫氏より御教示を頂いた。

### 古代史年表

時代	西暦	年号	日本の主なできごと	陸奥国関係古代史
	694 701 702 708 709	8 大宝 2 和銅 2	12月 藤原京に都を遷す 8月 大宝律令なる	○陸奥国で戸籍を作成する 9月 出羽都を置く この年の陸奥国戸口損益帳現存 3月 陸奥国鎌東将軍に巨勢麻呂、征後蝦夷将軍佐伯石湯らを派遣し蝦夷を討つ
奈良時代	710 712 712 713 715 715 718 720 721 722 724 724 728 730 737 741 749 760 767 769 774	和銅 3 5 5 6 1 1 2 4 5 6 1 1 5 2 9 13 天平勝宝 1 天平宝字 4 神護景雲 1 3 宝龜 5	3月 平城京に都を遷す 里制を改め、郷里制とする 閏 4月 墾田百万町歩の開墾を計画する 2月 国分寺創建の詔	9月 出羽国を置く 10月 陸奥国管内の最上・置賜二郡を出羽国に移す 12月 陸奥国に丹郡を建てる 5月 相模、上総、常陸、上野、武藏、下野の富民一千戸を陸奥国に配する 10月 陸奥国香河村、閉村に郡家を建てる 5月 陸奥国から石城、石背の二国を分置する 9月 陸奥国の蝦夷反乱し、按察使上毛野廣人を殺す。持節征夷將軍多治比縣守らを派遣する 10月 柴田郡の二郷をさき苅田郡を置く 8月 諸国より柵戸一千人を陸奥鎮所に配する 3月 陸奥国の海道蝦夷反し、大掾佐伯兒屋麻呂を殺す 4月 海道蝦夷を征するため、持節大將軍藤原宇合らを派遣する ※ 多賀城碑によればこの年に多賀城を置く 4月 新たに白河軍団を置き、丹取軍団を改めて玉作軍団となす 1月 陸奥国の田代村に郡家を建て、百姓となす 1~ 陸奥按察使大野東人の請により、多賀城から出羽柵への直路を開くことを実施する。持節大使兵部卿藤原麻呂らを派遣する 4月 1月 陸奥国小田郡より初めて黄金を貢する 12月 雄勝城、桃生柵の造営終る 10月 伊治城の造営終る 6月 陸奥国に栗原郡を置く、もと伊治城なり 7月 陸奥国の海道蝦夷、桃生城を侵し、その西郭を敗る

「幻の城柵郡山展」パンフレットより